

# 薩摩中世田制研究の一齣

——入来文書の「丁」の訓みと広さについて——

A Research on the Land System in Satsuma  
— Reading of “丁” in the Documents of Iriki —

四 本 健 光

Kenko YOTSUMOTO

薩摩中世史に関する貴重な史料である「入来文書」の中に、田畠の広さを示す記号として、 $++$ ……丁 $\Pi$ ……がある。この記号は何と呼称するのか、また広さはどのくらいかについて、朝河博士の著「入来文書」に拠って検証したい。

鎌倉室町期の土地の広さををはかる単位は、町・段・歩で、豊臣以降に畝も一般的に使用されるようになる。しかし、段と歩との間に1段の3分2を大、2分1を中または半、3分1を小を用い、<sup>シロ</sup>代または杖も使われている。

入来文書の $+$ や $\Pi$ は、代または杖に比すべきものである。

「代」に関しては諸説がある。日本紀には唐制に模して「頃」をシロと訓じ、「田制考証<sup>1)</sup>」は「一枚二枚或は一と長さ二た長さなど云ふ類」と説いているが、これは発生過程を示すものであろう。

一定の広さを示す単位としては、「農政座右」<sup>2)</sup>や、「田園地方起原」<sup>3)</sup>「高知藩田制概略」<sup>4)</sup>などに諸論が紹介されていて、1反の50分1説と5分1説とに分れるが、「安斉随筆」<sup>5)</sup>に拠り1反の50分1である。

入来文書<sup>6)7)8)</sup>や相良文書<sup>9)</sup>では、丈または丁や $\Pi$ が使用されている。

入来文書の正応元年の配分状<sup>8)</sup>に、「丈」があるから、丁も $+$ も朝河博士が、“jo”と呼ばれたように「丈」であろう。「西藩田租考」<sup>10)</sup>は、急捷に便するために1畝を $+$ 、6畝を丁と画いたと説き、「列朝制度」<sup>11)</sup>も、1反の10分1を $+$ と記し、一書には「ヒトツヘ」とよんだと説いている。「 $+$ 」は元享2年の水田検注帳<sup>7)</sup>だけに見られ、他は「丁」を使っているから、初めは「 $+$ 」を使って後になって「丁」に変わったものであろう。

広さについて、西藩田租考、列朝制度、朝河博士<sup>12)</sup>ともに1反の10分1としているが、「入来文書」の史料を検討すれば、原史料による照合ができないので確証ではないが、丁は1反の5分1である。注7-2は1反の5分1で計算が合うし、注7-1や其他では合計で10分1～2反の誤差が生じ、1反の10分1として計算するより、その誤差が僅少であるからである。

肥後の鹿子木文書<sup>13)</sup>や飯田文書、小代文書などにも「丈」があり、同佐田文書<sup>14)</sup>には「代」も使われ、豊後の松原文書<sup>15)</sup>には代、富来文書<sup>16-1.2)</sup>には杖が、また、肥前の竜造寺文書<sup>17)</sup>には「丈」と同時に「 $\Pi$ 」を用いている。

肥後、肥前のおよび豊後史料によっても「丈」「f」は1反の5分1で、「代」は50分1である。以上によって、+丁は、丈であり、その訓みは、日本紀や万葉集でも「丈」をツエと訓んでいるので、丈は杖で富来文書<sup>16-2)</sup>に見られるように「ツエ」であり、広さは1反の5分1で10代に相当すると思う。

## 〔註〕

## 1) 田制考証 高倉胤明編

上古田を量るに代を以てせし解

上古の文に田四千六百九十二代田一百四十二代などしるし置けるを後人孝徳大化の制を以てせし積に三百六十歩を段として七十二歩を十代とし（中略）五十代を一段とすと恐くは謬り成べし

予按に後人大化の制を以て七十二歩を以て十代とすと積せしは今にある所の一段三百六十歩の五箇の一を十代としけるにて今いへば二畝歩也されば一代は七歩二分也上古何ぞ如此俊か成事の有へき幾千幾百幾十幾代など算へしは田面の広狭を撰ばず一面々々を一代二た代と算へたる成へし。一枚二枚或は一と長さ二た長さなど云ふ類なるへし（中略）七十二歩を十代とすとは臆説と云ふへし

## 2) 農政座右 小宮山昌秀著（天保11年歿）

代

三代格曰令前租稅熟田五十代二百五十歩為五十代

拾芥抄注曰七十二歩為十代（中略）五十代為一段

一条禪閣令抄云俗謂二段曰百代謂一段曰五十代（中略）十代謂七十二歩五百代謂一町也

袖中抄曰一代ハ一段ナリ

年山記聞（中略）西山公ノ説トテ三十六歩ヲ一畝トシ十畝ヲ一段トシ十段ヲ一町トス七十二歩ヲ一代トシ五代ヲ一段トス然ラバ一代ハ二畝ナリ代匠記ニモ五百代小田トハ一畝ヲ代トイフ日本紀ニハ頃ノ字ヲモ「シロ」トヨメリ。

## 3) 田園地方起原 朝川善庵著（嘉永2年歿）

代之考

万葉集に

しかとあらぬいほしろをたをかりみたり

田廬にをればみやこおもほゆ 坂上郎女

年山紀聞云御釈に云（中略）

凡田は方六尺を以て一步とし、三十六歩を一畝とし十畝を一段とし、十段を一町とす。七十二歩を積て一代とし、五代を一段とす。然れば一代は二畝なり。

日本紀には頃の字をしろと訓ぜり。唐には百畝を頃とすれば本朝とはかはれり。（略）

政事要略云（中略）

二百五十歩為五十代

拾芥抄注云

三百六十歩為一段積七十二歩為十代（中略）

五十代為一段（略）

後成恩寺関白兼良公令抄云

俗謂二段曰百代謂一段曰五十代廿五代為段中十代謂七十二歩五百代謂一町也

律原發揮伝

古者以方六尺為一步七歩二分為一代五代為一畝十畝為一段（中略）古有代名今無此名当以六歩為一代称十代者二畝也

## 3') 政事要略

## 勘田租束積事

令前租法熟田五十代租稻一束五把以大方六尺為步二百五十步為五十代慶雲三年權云准令以大方五尺為步三百六十步為段者今案五十代与令段歩積一同

## 4) 高知藩田制概略 吉村春峯編

## 量地方法起源（第二地数）

検地竿一間四方なるものを一坪とす之を一步と云其折半なるものを勻と云ひ其折半なるものを才と云又一步を六箇集合したるものを一代と云 一代は六坪即 長三間横二間也 其一代を十合したるものを十代とし十代を五合したるもの 即三百歩を壺反とし十反を一町とす。

## 5) 安齊隨筆

## 代の事

一 代 坪一尺二寸なり

十 代 七十二坪二畝なり

五十代 三百六十畝一反なり

## 6) 入来文書 238

薩摩入来院内山之手手持分帳

くろむしやの門

二反 ソノ田

一反<sup>III</sup> チカホ八所田

一反 小早田

二反 岩屋ノ口

五反 大河ノハタ

二反 キテノ下

一町五反 マヘノ田ウトカケテ

Ⅰ 中 コキテノ下

Ⅱ ユハノサコ

二反Ⅱ ヤマカムレ

三反Ⅲ 井ノ尻堤ノ下

三町五反Ⅰ 中

## 7-1) 入来文書 72

薩摩入来院内清敷北方水田検注帳

元亨2年3月13日

原  
一、竹田分

ミナわた 一、三反十

一所一反<sup>II</sup> 一、一反十

へつしんのせい ともむた おうちた

新一、<sup>II</sup> 一、<sup>III</sup> 一、一反<sup>II</sup>

おうちた かひもと馬渡加定 竹下

一、三反Ⅲ 中 一、二反十 新一、十中

山口 みやたのせい いえのまへ

新一、中 新一、<sup>II</sup> 新一、二反十

おひのくち

一、十中

以上丁七反<sup>III</sup>（<sup>II</sup>カ筆者注）

## 注 7ノ2

## 一、小牟礼分

一、一反 わたせ 一、十

なかたけ 一、三反十



## 13) 鹿子木文書

高瀬実忠宛知行坪付 天正八年

玉名郡上小田之村永寿寺居屋敷一所并田地

めくりまち 三反三丈

かやハラ 三丈

けまつとう 三丈

糸の木まち 一反一丈

以上 六反

## 14) 佐田文書

佐田鎮綱知行坪付 天正十五年

古 給 分	一所	五町七反	下 岩 坂 名
"	"	四町五反廿五代	内 河 野 名
"	"	三町二反	赤 松 名
"	"	四町五反	く ほ 名
深 見 之 内	"	十三町六反	西 光 寺
山 城 分 之 内	"	八反	は る 名
"	"	五反	三 社 領
"	"	壹町三反	岩 坂 名
深 見 之 内	"	十町九反	三 社 領
"	"	壹町	竹 田 津□先給
山 城 分 内	"	五反	岩 坂 名
	一所	廿五町	安 心 院 田 井 内
深見内かちやその	一所	五反	竹田津刑部先給
日 畠 地 右 ニ 加	一所	三反	右 同
香下寄合四人之跡	一所	十三町	香 下

以上 八十五町三反廿五代

## 15) 東国東松原文書

八、松原内蔵丞知行坪付

坪付

渡	河	一所四反	源 三 郎 抱 分
小 ふ か た		一所貳反	右 同 人
ち か さ こ		一所壹段	右 同 人
ひ か け		一所二反	野 田 主 計 丞 抱
た け そ と わ		一所貳反	今市 三 郎 二 郎 抱 分
清 水 丸		一所壹段卅代	右 同 人
ほ そ 作		一所壹段廿代	源 五 郎 抱
小 ふ か た		一所壹段	岡 崎 善 四 郎 抱
ミナミふきの所々		一所三段卅代	源 三 郎
一 所 屋 敷	一ヶ所		右 同 人

以上 田畠壹丁八段卅代

七月廿八日(天正八年カ)

松原内蔵丞殿

## 16-1) 東国東 富来文書

## 筑後国稲数村田畠坪付注文案

## 稲数田畠坪付之事

はこ田	一所三段式杖	畠中名之内 平次郎抱
今寺口	一所壹段式杖	同
はこ田	一所壹段	同
宮之下	一所八杖	同
大ふ	一所壹町	同
寺田	一所四段	同
九えつほ	一所四段	同
ちかわたせ	一所三段畠地	同
まち口	一所半 畠地	同
屋しき	一所壹段	同
寺田	一所壹町	次郎太郎抱
以上	三町九段四杖中	

弘治三年二月十二日

## 16—2) 東国東文書

## 筑後国稲数村坪付注文

## 一所いな数つは付之事

はこ田	一所三段二つゑ	平次郎
今寺口	一所一段二つゑ	同
はこ田	一所一段	同
宮ノ下	一所八つゑ	同
ちかわたせ	一所三段	同
まち口	一所はん	同
たいふ	一所一町	同
しもき	一所一町	同
寺田	一所四段	同
くのつほ	一所四段	同
同屋敷一ヶ所		同
以上		

## 17) 竜造寺家文書

## 肥前国検注帳案 文永三年

## 金丸名

見作田	九丁三反一丈
損田	二丁二丈
得田	七丁二反四〇

## 重枝名

見作田	二丁二反一〇
損田	七反三〇
得田	一丁四反三〇